## ラスタの座標参照系変換

## 変換するラスタデータの保存されているフォルダ、ファイル名はすべて半角英数文 字でなければならない。日本語があるとエラーになるので注意。

①上部メニューより「ラスタ」→「投影法」→「再投影 (warp)」を選択。

ベクタ( <u>O</u> )	<u>ラスタ(R)</u> データベース( <u>D</u> )	Web( <u>V</u>	<u>V</u> ) メッシュ(	<u>M</u> ) プロ	セシング	( <u>C)</u> ∧J	レプ( <u>H</u> )
	🍢 ラスタ計算機				2		
	ラスタを揃える		100 N N N		~	:: - V	Ş []
<b>6</b>	井 ジオリファレンサ		abe abe		abe		2
	解析	►				00	
	投影法	►	🕼 投影法	の割り当て			
	その他	•	🚷 投影法	を抽出			
	抽出	•	🎁 再投影	(warp)			
	変換	►					

- ②「入力レイヤ」に変換元ファイル(今回は「soukenbase\_JGD.tif」)を指定
- ③「変換元 CRS(オプション)」に入力ファイルの座標系を指定します。(今回は平面直角座 標系 JGD2000\_8 系・EPSG: 2450)。
- ④「ラスタの CRS (オプション)」に出力するファイルの座標系 (今回は地理座標系 WGS84・ EPSG: 4326)

Q 再投影(warp)	×
パラメータ ログ	
入力レイヤ 	座標を変換する元ファイルの指定
Soukenbase_JGD	
変換元CRS [オプション]	座標を変換する元ファイルの座標系の指定
EPSG:2454 - JGD2000 / Japan Plane Rectangular CS X	I 🗸 🗸
ラスタのCRS [オプション]	出力ファイルの座標系の指定
デフォルトCRS: EPSG:4326 - WGS 84	
リサンプリング法	
最近傍(Nearest Neighbour)	•
出力バンドのnodata値 [オプション]	
未設定	<b>•</b>
変換先CSRの単位での解像度 [オプション]	
未設定	•
▶ 詳細パラメータ	

⑤ボックス下部「再投影したラスタファイル」右端の「…」のスイッチを押し、「ファイ ルを保存」をクリックすると、「ファイルを保存」ボックスが開くので「保存先、ファ イル名、ファイルの種類」を指定し保存設定を行います。

ファイル名は内容、座標系が分かりやすい名前にするとその後の取り扱いがしやすくなりますので、雑に指定せず目的をもって指定してください。

再投影したラスタファイル		
L:/②職場関係/②研修業務/@R3年度専門研修/森GISR3/森林GIS/soft&data/GisData/soukenbase_wgs.tif 🛛 🚳		
▼ アルゴリズムの終了後、出力ファイルを開く	一時ファイルに保存	
		ファイルに保存

⑦「実行」ボタンを1回クリックすると変換開始、インジケーターバーが反応します。エラーが即座に出る場合は設定が間違っています。主に座標参照系の設定、指定ファイルのスペルミスなどが多く見られます。

GDAL/OGR コンソールコール	
gdalwarp -s srs EPSG:2454 -t srs EPSG:4326 -r near -of GTiff "L'¥¥② GISR3¥¥森林GIS¥¥soft&data¥¥GisData¥¥soukenbase_JGD.tif" "L:⁄②職: 林GIS/soft&data/GisData/soukenbase_wgs.tif"	廣場関係¥¥②研修業務¥¥ФR3年度専門研修¥¥森 場関係∕②研修業務/ФR3年度専門研修/森GISR3/森
0% パッチプロセスで実行…	キャンセル 実行 閉じる ヘルプ

## ⑧あせらない(重要!)

変換には少し時間がかかります。また、変換終了後「ログ」画面に切り替わりますので、 「閉じる」を押して変換終了です。

「パラメータ」画面に切り替えた場合、ここで「閉じる」ではなく「実行」を選択する と同じ処理が始まります。途中で画面を閉じるとファイルの破損など発生するので、そ のまま処理が終わるまで待ち、「閉じる」で変換作業絵御終了してください。